夕刊 磐城新聞
四月八日發行
發行所 磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

炭鑛民俗誌
小稿 山口彌一郎

十一

六、採掘と搬出

石炭採掘に就いて古文献に見ゐてゐるのは單に『掘る』と言ふことで筑前國續風土記の『山にもほる』。俗淡三才圖會の『人掘取之』。雲根志の『山中に掘得て』『石炭を掘ること』。陶犬新書の『山中より掘り出す石にして』等である。本草綱目啓蒙にも『石炭は銅山の如く山を掘りて切出す』とあり、其の發掘時代には炭層の露頭より掘り出すに過ぎなかつたものと思はれる。岡田博士が『本邦古代の採炭技術に就て』に於て發表せられた唐津町菊池家に傳はる繪卷と言ふのには卷末に天明四甲辰年(2444)秋七月肥前唐津城南隱士木崎條々軒入道盛標、行年七十三歳と記しあり、唐津炭田は享保(2376―2395)の頃北渡方村字ドウメキの田圃中に農民が炭層を發見したと傳ふるから當時の採炭の狀況を描いたものとして、恐らく現在本邦に知られてゐる最古の採炭狀態描寫の貴重な文献であらうと思ふ。次に其の繪卷物中の記事を揭げてゐる

石炭

一、唐にては石炭其色如漆又堅し日本にも同様なり

石炭不案内の地にては藥店是を誤て乾漆とし、唐醫不知してこれをもちゆ依て是を間部といふなり但金銀銅鐵の山をは通してかな山といふなり、是をも穴といふ事を𨜟て鋪といふ也、ほり入る口をも鋪口といふなり、間部口といふがごとし

一、石炭のほり所は國によりて所によりて違ふ也。必山のみにかぎらずして炭のある所低きは炭の上品也。低は先づ竪に掘り夫より又横にほる也。是を釣瓶掘と云。出水多く水溜り強き故に水も釣瓶にて汲とり、石炭をもつり揚る也。又石炭を國によつて岩木と云なり。炭の名あれど燃ゆる物なれば此名一理あり

一、石炭は生石にても能くもゆる。併し甚だ匂ひ深し。二度めは匂薄し一得一失也。全躰は二度用立ものなれば徳用多き物也

初燒は匂ひ強き故に嫌ふ人ありて二度めを用ふる事多し、二度め迚匂ひなきにあらず

潮聲硯静抄帳

席上吟

ふく〳〵と雨水吸ひぬ路の薹　磐洲子
草萠ゆる徑一ぱいの轍かな
梅の咲く籔のうしろに住ひけり
路の薹芥をぬきて丈けにけり

水明

哇くつす蹄のあとや下萠ゆる
地すべりのあらわの肌や路の薹
堆肥小屋かたむきてあり草萠ゆる
トロ道へくづるゝ崖や路の薹
下萠やはろかにけぶる礦山の町
崖下の海鳴りはげし梅の宮

4月9日 △米國南北戰爭了る(一、八六五)△航空法公布(大正一〇)△發明協會懇談會を京都に

滿洲國皇帝來朝恭賦
小野務平

建邦三歳俗歸仁　上下一心思善鄰
萬里泛査來握手　槪東和協合逾新

又

玉葉新迎情自國　祇應厚誼憶當年
帝士超海空前事　兩國修交亦宿緣

コント 支配人と技師
蛙山人

上

Sといふのは、ある製鋼會社の若手技師です。設計係で、非常に頭腦のいゝ人ですが、お酒を飲むと、よく小さな失敗や、時には大きな失敗をやることがあります

この頃になつて色々な會合が、いつもS技師が幹事になつて、銀座のF製菓の三階や四階の社交室で催される。T理學博士の歸朝歡迎會や、H飛行士に渡歐飛行を聴く座談會や、在京の組友で技師の集合といふやうな時などに

その日も、S技師が幹事で、一夕たのしい、それでゐてどこか軍需景氣に活氣を帶びる工場の技師たちにふさはしいにぎやかな會合のあとで、二人きり殘されて終つた私に、當のS技師が、こんな風に話し出しました

『きみ、この頃になつて、よくこのH製菓で僕たちの會合が持たれるだらう』

『うん。だつて、主として君が幹事で選定するのぢアないか?』

『さうだよ。それが斯うしたわけなんだ……』

それからS技師は語りつぎました

『……昨年の秋――といふより、もの冬だつたね。僕は神戸から來た造船のM君と銀座へ來て飲んだんだよ。ところが悪いことに、こゝいらを飲み歩いて、すつかり財布をはたいて了つてから、子供へ土産の菓子を買ふことを、思ひ出したんだ

『……ところで、いきなり入つたのが、この階下の賣店さ。チョコレートか何かを、小さな鞄へ入れたものを取つてから、財布を出した、さあ、金が少し足りないね。それでもチョコレートの鞄は一寸離さないんだ

その日〳〵

開く(昭和八)△若山本部隊渡滿(同九)

○

レーンコートを置きわすれて急いで引返したら、玄關口に置いてあつたシクラメンの鉢をあッといふまに、蹴飛ばしてしまつた。

講談 戸隱奇譚 山の怪秘
(152) 丸山寛雄作 眞木浪嶺

中條流女醫者(三)

『では。とにかく私の出來る限りの治療をして見ませうか』

かな女は見かねて云ふ

『どうか、そう願へればこんな嬉しいことはございま

せん。その上で治らねば致し方ござらぬ、潔ぎよく諦め申します』

典膳は手の甲を見つめて涙の粒を二ッ三ッ落した。これが治らねば生甲斐も何もないといふ佗しさが見えた

『藥の用意もあります故、明日から暫く通つて御覧なさい』

かな女は典膳を歸した

『平七郎樣、とんだ病人が參りましたよ』

かな女は、元の部屋へ入つて來た

『何か泣くやうな訴へるやうな、氣配がしましたが』

『私も、これまで幾人かの奇病を診ましたが、今日のやうな不思議なのは、これが始めてゞす。何かに感動すると、左手の甲に黒い痣のやうなものが浮び出てくる病氣……』

『ねッ、あの手の甲に黒痣ッ。して樣子は』

平七郎の胸は早鐘を打つた

『あなた樣と同じ浪人風の侍』

『あつッ、それぞ拙者の仇敵』

『ねッ、何を仰有いますの それでは、あの黒痣の方が!』

かな女も、あまりの意外に愕いて。其場へぺたりと座つてしまつた

『では、明日、又參りますな』

『今日は藥の見分けなして明日からでも治療を始めると申しました』

『あゝ、拙者の思ひの一部が叶ふ日が巡つて來た。先生拙者は何も申しませぬ。この通り……』

平七郎は兩手を堅く組合せるなり高く差上げるやうにして、かな女を伏し拜んだ。この田舍侍の動作はあまりに誇張した突飛なものなので、かな女は思はず吹き出してしまつた

『はゝゝゝ、まあ、なんといふ平七郎樣でせう。何も私を伏拜む理由はないぢやありませんか、そんな大袈裟な眞似はお止しなさいませ』

かな女は無邪氣な子供をたしなめる調子である

『でも、かうして御世話になつてゐなければ、仇岡庭を見つけることは容易ではなかつたのです』

見る足る刈馬平七郎の顔には、紅々した血色が輝いて來た。興奮と緊張とが入混つて來たのである。白い額の皺も、凜々しく光つてくる。手足の動きも輕くなつた

俺は強いぞ。腕節は強いぞ

と云つた自信力が、身体の隅々に滿ち渡るやうだつた

その夜、平七郎は床の中で輾轉反側した。眠らうとすれば岡庭典膳の顔が凄い形相となつて覆ひかぶさつたりする。過ぐる山の春に戸隱火の御子社境内の果し合ひの情景があり〳〵と見えて來た

平七郎は明日その仇敵に出逢つて、宗門の意趣返しをすることは痛快な事に思つたが又、相手の力を想像すると、いまはしい危惧に襲はれた。あの時は互角の力で爭つたから相討ちとなつたが、こん度はどうかといふ懸念だつた。或は戸隱山を出でゝ流浪してゐたゞけに、その劍筋は相當に荒んでゐることは考へられた反對に自分はどうか、あれ以來上州圓岩近くの山中で惡人を相手にしたのが始まりで相當に。眞劍を振つて來てゐる。勝目のないことはない。然し相手岡庭も惡に加擔する程の奴である。必ずしも弱いと云ふことは云ひ得ない

平七郎は仇討つ日が明朝に迫れば迫つたで、こんどはその勝敗を氣にして來た勝敗は時の運とは云ふが矢張り腕の冴えた方が勝を占める道理になると考へられた

森里句鈔
伊達森里

秋涼しポプラの庭に假寢する
一所献穀田や秋暑し
葛の葉の谷一面や秋涼し
秋深き營門を出る除隊兵
秋晴れや釣り上げし鯔の腹光る
秋晴れや吊せし豆のよく乾く

寄贈書目

△ローマ字四月號(一部二十錢、東京市麴町區丸の内三ノ一二帝劇事務所内ローマ字ひろめ會)

貸切の御用命は
「尼子タクシー」へ
六四〇番
御願致します
長距離は御相談に應じます

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋 和洋銅物 （久） 釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番 九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番

確實敏捷は久の生命なり

井上茂作氏 客年來破産法事件ニ關シ審理中ノ處去月二十七日宮城控訴院ニ於テ無罪ノ判決ヲ受ケ愛ニ全ク晴天白日ノ身ト相成候ニ付テハ慶賀ニ堪ヘサル次第ニ有之候就テハ君ノ爲メ左記ニヨリ雪寃慰安會開催致スヘク候間御賛成ヲ得度此段御通知申上候 敬具
記
一日時 昭和十年四月十一日午後一時
一會場 平町聚樂館
一會費 金五十錢
昭和十年四月六日
發起人 青沼鋒太郎 野崎滿藏 諸橋久太郎 萩原義雄 佐々木龍若 坂本隆藏 關内正一
申込所 平町二丁目(電話十六番)關内油店方

お醤油は……ヤマフル
鹽屋 山崎合名會社
福島縣平町
電話(營業部一〇番 本店二七番)
味噌 醤油 たひら正宗 鰹節 食料品
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

自轉車ハ左記
有名車を御撰擇下サイ。
◎宮田ノ自轉車 世界的ニ進出セル
◎ゼブラノ自轉車 夙ニ堅牢輕快ノ定評アル
◎マーノ自轉車 實用經濟車トシテ好評アル
◎マーツ號ノ好評ヲネタミ羊頭狗肉ノ策ヲ用ヒ僞物ヲ販賣ナシ商權ヲ侵害ナシツヽアル者アリ法的解決ニヨリ御得意樣ノ御了計ヲ得ン
宮田代理店 ゼブラ代理店 マーツ代理店
エビスヤ商店 電六六番

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平町南町一六番地 電一七〇番
(入院隨意 病室完備)

貸切の御用命は是非〳〵
電話二一七番へ
親切叮嚀、流線形
安全第一、最優良車設備
サーヴイスモツトー
平町四丁目
貨物一般 鈴木自動車部

診療科目
一、齒科一般 保存科、補綴科、繼續架工科 齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院
院長 日本齒科醫學士 中野憲次
日本齒科醫學士 西川誠
平町田町(松月堂向と)電話五〇九番

外科專門 X光線科
入院隨意(自炊の便あり)
平町南町
上田醫院
病室完備 (電話一二九)

耳鼻咽喉科專門
病室完備 自炊ノ便アリ
平町田町(電六九一)
山内醫院
醫學士 山内亨吉

夜間診療
胃腸 性病 專門
內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科
松村胃腸性病科醫院
(平町南町電一〇七番)
(見習看護婦募集)

大塚の男女學生靴
景品付き大賣出し
信用得る……自製品
●學生ボックス編上靴 六、〇〇ヨリ
●女生 通學靴 五、〇〇ヨリ
●女學校 指定靴 五、五〇ヨリ
外小學生通學靴各種
ゴム長靴……ランドセル
月星運動靴……景品雜記帳 エンピツ半打進呈
御用は 平・田町 大塚 製靴部 運動具部 電話七七番

銘木ト建築木材ノ御用命ハ
今一番勉強スル當店へ
内外銘木 建築材一式 便利瓦
平町紺屋町
㊎織田材木商店 電話四六〇番
極優良材碁將棋盤アリ格安讓リタシ。

月曜論壇

入山創業四十年

明治廿八年の晩春、時恰も日清の講和成り臺灣及遼東半島を我が有に歸し、建國三千年來の光輝ある歷史を辱しむる事無く、我帝國を九鼎大呂の重きに置て、亞細亞の東日出づる國の存在を萬邦に知らしめ、輝かしい躍進日本の第一歩を踏み出した當時、本郡內鄕村の一廓に力强い呱々の聲を上げた入山炭鑛が拮据經營四十年、其間事業上財政上に於て幾多雪虐風饕の難關を突破し、今や六百萬の巨資と二千有餘の多數從業員を擁して年產額に五十萬噸全國百餘の重要炭山中二十位の優勢なる地位を獲得するに至つた迄の發達變遷を顧る時轉た無量の感慨に禁へざるもの豈單り入山炭鑛の關係者のみに止らず炭鑛を主要產業とし之の恵澤に依て生きつゝある地方人の擧げて既往を回顧し將來を祝福せねばならぬ處であらう、抑々今日地方三大炭鑛の一として儼然常磐炭界に君臨する大入山王國の草創に遡れば當初蕞爾たる高倉坑の操業に創まり、爾來川中、第三坑と伸展して更に湯本に進出し、四、五兩坑より今や六坑の最盛期に入り、漸次海岸に伸びんとして最も輝かしい明日を約束され極めて有望なる同社の前途は他の磐炭古河兩鑛と共に蓋し端倪すべからざるものがある、惟ふに國家興隆の基調をなす產業の開發は、在所に埋藏遺棄されゐる天然資源を拓く事を以て最大とされ、之の見地から大入山今後の發展向上は啻に地元民を潤す處絶大なるものあるばかりで無く實に國富の增進に資する點も亦少からぬものがあらう、幸にして同社現在の機構は其の人的物的兩方面に亘り、前記の期待を滿足せしむるに充分なりと斷ずるに大した誤りは無い樣に思はれる而も鑛齡まさに不惑、未だ必ずしも守成の域に入つたもので無く寧ろ本格的の飛躍は今後に俟つもの多きに居るであらう、近きに迫つた同社の創立四十周年祝賀を前に寸懷を叙す事爾り

天は晴れて氣は溫く 弗々出初めた花見氣分

街頭に溢れた甲高い櫻音頭の好調に 滅切り春めいた昨日曜

鋪道に流れるさくら音頭も滅切り春めいたきのふの日曜日は朝來の快晴に惠まれ、松ケ岡に、鎌田山に、三々五々ピクニックの長閑な情景が描かれ公園の南崖には眩ぶしい程の陽を浴びて心ゆく許り酒盃を傾けてゐた氣の早い連中も見られた、町でも愈々昨日からベンチや垣根の修繕等、春の裝ひにいそがしい、花はもう表公園の入口邊は綻び初めて頻りに『春の享樂兒』を手招いてゐる、季節外れの雪などがあつたせいもあり滿開は縣社大祭頃の十七日頃であらうと云ふ、それでも昨年よりは三四日早く、書き入れの賣店子も十日の招魂祭を前にそろ／＼小屋掛けにかゝつた、花の春はこの日を序曲に繚爛の繪卷をくりのべ花下に躍る絃歌のさんざめきは例年以上賑ふ事であらう

博覽會大當り

俄かの人雪崩れに 監視娘面喰ふ

春に浮かれ出した人々で博覽會は大當りだ、午前中約五百名を吸ひ込んで閉館の午後九時迄には約千名近くに上り監視ガールを面喰はせた、『平の玄關口』である驛の降車人員も平日の約千名からズーンとはずんで千九百餘名(定期を除く)—氣も緩んで現金、萬年筆、洋傘それから辨當等の忘れ物等も相當の數に上つたそう

不夜城現出

公園と新川へ點燈

公園の雪洞は目下消防組の手で各方面の募集に當つて居るが今年は博覽會等の關係から新川端へも約百五十餘の雪洞を點じ公園の千餘の提灯の外照明燈と共に來る十一日頃點燈花の巷を不夜城化する豫定であると

雄魂三百十柱を祀る 十日の忠魂祭

式後關係者に博覽會映畫館開放

恒例忠魂祭は明後十日聯隊區、知事代理、其他多數來賓を招き盛大に擧行されるが合祀戰歿者は大越中佐外三百十名の多きに上つてゐる、町ではこれら軍人遺族者並に傷兵約三百七十名に對し既報の如く博覽會並に映畫館の入場券を贈り慰安する

輝く新優勝旗に 唸る各選手の腕

當日の武德大會盛況

當日の呼物たる武德會平分會主催の武道大會は目下各分會の參加申込みを受け付けてゐるが劍道、弓道、銃劍道等約三百名に上るものと觀られ、劍道は昨年三年連勝で澤渡分會が優勝旗を獲得したので今年は新調の燦たる優勝旗を繞つて戰士の意氣もあがるだらう

磐中組主任

新學年の部署決定

磐城中學の各學年組主任並に副主任は左の如く決定

一年—大關彌次郎　一組廣田德行　二組菅野貞雄　三組渡邊恒夫　四組樋口重太郎　五組吉岡屋敦三　二年—庄司政之　一組大村隆　二組谷澤武夫　三組野口新藏　四組山路强　五組柴田美登　三年—芝崎新吉　一組豊口欽哉　二組小林勝人　三組谷澤寅夫　四組河村饒　五組中島茂　四年下山田尙方　一組新谷榮　二組山本三郎　三組下平熈　四組中柴光泰　五組大橋秀冬　五年—橋本芳太郎　一組近藤廣記　二組高清水勇助　三組吉田泰雄　四組吉田秀文　五組根本源壽

なほ逝去の梶原、休職の廣木兩敎諭の後任として左記二敎諭が著任した

柳澤保(數學)松本第二中より　吉岡屋敦三(國漢)廣島高師卒

交換孃にも試驗地獄

五人に一名の採用率 今明兩日平局で執行

春に背く試驗地獄の惱みは平局にも描かれた—同局の交換孃新規採用試驗は今明兩日午前八時から算術、作文、雜文、メンタルテスト、身体檢査等の順序で行ふが應募者約五十名中高女出が十二名もある、採用者は平均五人に一人の十名だからなか／＼容易でない

常磐炭鑛機械會

下野、芦川兩氏講演

日本鑛山協會主催常磐炭鑛機械會は二十九日午前九時から磐炭淺野記念會館で開き下野古河所長、芦川入山機械係長の講演がある

產業組合設立促進指導

產業組合の擴充を期するため縣では來る十五日から未設置四十三町村の設立促進指導會を開くが本郡關係左の如し

十五日—三坂村組合、十六日—永戸村組合

將棋大會

平將棋同好會では既報の如く來る十四日五丁目吉田屋に於て春季大會を開くが双葉其他の方面からの參加者約四十餘名に上り盛會を豫想されてゐる

。。。。。町農會役員選擧　平町農會では十五日午後一時から役場會議室に役員選擧に關し總代會を開く

横山警視赴任

警視に昇格、若松署長に榮轉した横山宗延氏は昨七日平驛午前十一時十分發磐越線で官民多數の見送りを受け赴任した

胃腸を病む女中 生家戀しさに放火

平窪のボヤ原因判明

一昨六日午後三時近く平窪村大字下平窪字笹野田六六養蠶業明智源七方物置から發火、同物置及母家を少し燒き鎭火した、損害五十餘圓、原因平署で調査の結果火事場附近に徘徊する擧動不審の同家女中上遠野村大字深山田字仲の內七一馬次三女渡邊トヨ(一八)假名—と判明した

トヨは去る二月二十日から同家に雇はれてゐたが一週間位前から胃腸をこはし、生家へ歸れゝば充分醫務も出來るだらうと、乙女心の淺墓さから此の擧に及んだものであると

。。。。。流線型の極致

高級ポンテアック號

近代藝術の尖端を行くスピードラインと近代科學の精を盡した新流線型を完全に表現した一九三五年高級ポンテアック號は一直線に貫く銀線スマートな曲線の諧調は、東京、大阪の各大都市に流線美の極致と嘆賞され、今夕平町福島モーター商會に到着、業界に御目見得すると

湯本の火事

一棟二戸を燒く

今八日午後一時半頃湯本町笠井四玩具商鈴木今朝治(三八)方から發火、一棟二戸を燒いた、原因は同人妻よしゑ(三五)の爐の不始末で損害目下取調べ中

齊藤定一氏

元磐城炭鑛鑛務課長齊藤定一氏は豫て病氣の處藥石その効無く今八日朝永眠した、享年六十三歲、葬儀は明九日午後一時より三時迄平町鍛冶町の自宅に於て告別式執行追て鄕里鶴岡市吉住町龍藏寺に於て本葬を營むと

。。。。。適齡の伜捜索願　內鄕村大字綴字堀坂自動車運轉手小野末吉(三二)は今年適齡なるに拘らず所在不明なので父の玉之助さんが心配、六日平署に搜索方願ひ出た

春宵のメロデー

明後十日夜マルトモで 湯本マンドリンオーケストラ第四回演奏會

湯本マンドリンオーケストラ第四回演奏會は本社後援の下に明後十日夜七時からマルトモホールに於て開催するが入場無料、一般の來聽を歡迎する、プログラム左の如し

1序曲夢路—マキオツキ作曲　2悲歌歎きの天使—マキオツキ作曲　3樂興の瞬間—シユーベルト作曲、ムニエル編曲　4幻想組曲ピエロの物語り—ユーゴーミック作曲(第一…導入曲、第二…ピエロの登場、第三…月に寄するセレナーデ、第四…失望、第五…いちらしきロンドン(輪舞))　5ソナタ第三番—ヘンデル作曲、山川忠夫編曲(第一樂章…アダヂオ、第二樂章…アレグロ、第三章…ラルゴー、第四章…アレグロ)　6幻想組曲妖精の踊—バウヘロン作曲(第一…テンポのおそい圓舞曲、第二…誑惑のシーン、第三…ヒジカット第四…亂舞)　7歌劇メリーウイドー幻想曲—フランツレナー作曲、マキオツキ編曲、番外—流行歌(國境の町、谷の灯點し頃、旅笠道中、その他)

甘夢醒めての服毒

女給に愛人を寢取られ 爛熟した娘の自殺未遂

双葉郡新山町中野俊夫方見習生小名濱町生れ橋本きく(三三)は去る四日午後十一時頃寫眞現像用の硝酸銀を多量に嚥下し苦悶中を俊夫が發見、醫師の手當を受け一命は取止めた、原因はきくは數年前から小名濱町鈴木善作(三六)と戀仲となり互に將來を約してゐたが、鈴木は本年一月頃平町あたりの某カフエー女給を落籍してゐたのでそれを悲觀しての結果である

滿蒙と國防博ニュース

今後の催し物色々

十日午前六時より滿洲國皇帝歡迎の旗行列、提灯行列參加の小學生一千名に同夜博覽會及演藝館を無料公開　集合地博覽會、道筋一丁目より五丁目に至り新川町より南町を會場に歸る・十七十八日(縣社の祭日)に花火大會

大花火—六寸玉、一尺玉—一尺玉は火藥八貫を要す、二尺玉—二尺玉は火藥十二貫を要す　目下關係者一同協議煙火師と交渉中、同日は午後四時半と夜の十時半に此の大物を打上ぐる・二十一日(凧揚大會)既に事務所には珍らしき大もの變種凧等の申込みあり、此の催を見んと田舍では大騷である、因に賞金は一等二十圓、二等十圓、三等五圓の外に銀の大カップ三ケ副賞として出る

平商新級長

平商業學校では今八日左記正副級長の任命式を行つた

一年—甲組鈴木道榮　市平美德　乙組小野正雄　立花政雄　二年—甲組加澤清　荒川利夫　乙組秋元博　村上信　三年—甲組松島精　齊藤重雄　乙組會田長太郎　吉田長一　四年—甲組黑川壽三　金成新一郎　乙組松本貞雄　新妻政雄　五年—甲組內海實　粥塚靖　乙組齊藤一夫　岡田彥太郎

尙は各組主任並に學年係は左の如く決定

一年—會田健二郎　甲組下山田勤　乙組八代俊一郎　二年—清水幸藏　甲組新田繁　乙組室原重幸　三年—泉田亮　甲組玉手利藤　乙組宮原勉　四年—若松千秋　甲組宮澤勝三　乙組中村政　五年—武川信夫　甲組鳴原四郎　乙組大澤勝吉

鄕土の史的時事解説 (二)

白水阿彌陀堂の第二回修理

本堂宇の特別保護建造物並に內壇安置五佛像國寶各指定に就て

勿來生(寄)

恐らく此くの如きが、陸奧國岩城氏の正系でなかつたらうか

假りに則道を一代と見做せば、凡そ後三年役の前後頃より始まり、其の後裔の照義に至つては北條鎌倉幕府の末期に當る。けれども現存史料から徵すと、源、北條二氏の時代(文治二年より元弘三年に及ぶ百四十八年間)中、僅かに忠淸、師隆、隆衡(平ともあるものならん)の四人—か索められぬ。隆守、義衡照衡、照義などいふ人は、系圖以外に之を考證することが出來ない。況んや南北二朝の戰亂時代、次いで足利の治世に於いて、岩城、岩崎氏と其の支族の名を往々明かにすると雖も、夫れすら同名異人あり、或は附會、故作があつて確然を缺くから、所謂鎌倉時代の之が正支原を顯定し、其等の氏名、系統を齊整すること困難である。此等の所以は一に現存系譜と史料が素より一致、契合せぬ爲である故に其等の系圖、記錄てふは、如何に當てにならぬものであるかを察すると、少時し呆然たる始末でないか

因みに、岩城氏關係系圖並に流布本同斷に見はれた本、分家より其の庶族、郎黨に至る者の俗名、即ち太郎より十郎までの在名、出自、後姓の關係等を、大略類別しておく

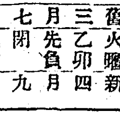
太郎、大舘、好間(史料では島)檜葉、志麻(後ち島)佐藤、大和田、本田(多とも)住吉、石森中山、小泉、那須(下野國)伊達、佐竹(常陸)窪田

次(二とも)郎、白土、新田、鹽、瀧山、東目、入立、東鄕、米田、水谷、增田、小川、三島、高萩横田、上遠野、北鄕、駒木根、中山(イ再出)四倉、高貫、田村、門澤

三郎、高久、岩崎、岩間(岩城、菊多二郡に各在するが前者なり)酒井、小川、顯(後ち神)谷、下神谷、下神谷、田富、好間(イ再出)、富田、國魂王比沙(後の大久か)

四郎、荒川(河とも)、椎(標とも)葉、馬目、絹谷御代、西鄕、幕之內、狐塚、上船尾、玉山、愛(會とも)谷

九日(小名濱測候所調査)　日出 五、一四　月出前 九、〇六　日沒 六、〇四　月沒　滿潮 前六、〇五 後九、二〇　干潮 前〇、三五 後一、五五



舊三月七日　火曜　乙卯　先負　閉　尾宿　新四月九日

諸判定應需　東京市本鄕區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神誠館

▲一白の人　勞を厭はず奮闘せば樂しき晩樂に迎へらる▲二黑の人　心を締めざれば意外の過よりもつれ來たす▲三碧の人　機を捕ふ事敏なれば勞少くして効多し▲四綠の人　足る事を知れば却て闇々裡に利得あるべし▲五黃の人　我意を通さんとすれば長上より見離さる▲六白の人　平和を保つが第一口舌は後の禍を引き起す▲七赤の人　浮薄の潮流に捲き込まれぬ樣注意すべき日▲八白の人　山氣は破れを招くものと知り本業大切たり▲九紫の人　八方に目を配り障がいを除きつゝ漸進すべし

父定一儀豫テ病氣ノ處藥石効ナク今朝死去致候間此段辱知諸君ニ謹告仕候
告別式ハ明九日午後一時ヨリ三時迄自宅ニ於テ執行、追テ本葬ノ儀ハ故人ノ遺言ニ依リ鄕里鶴岡市吉住町龍藏寺ニテ相營ミ可申候
尙香華ノ儀ハ遺志ニ依リ堅ク御辭退申上候
昭和十年四月八日
福島縣石城郡平町鍛冶町二一
男 齊藤定輔
外親戚一同

生徒募集
校舍…新築落成…
(本科)一年 五十名 (別科)一年 三十名
(別科)二年 若干名
願書提出四月二日迄、授業開始四月二日より
學費の低廉と家庭的に實質本意なるは他校の追從し能ざる所
平町八幡小路(縣社飯野八幡神社前)
磐城家政學園
(寄宿舍の設備あり)

小兒科
志賀醫院
平町南町五〇番地
電話一六二番
(入院應需)

天下一品マヅイ
素人料理 おでん 榮ちゃん
花ノ里 新田町

美味で評判の
イワキサロン
平町電三五二

廣告
小學生用.防水マント
新入學生用 ¥1.40 ¥1.80 ¥2.20
パラソルとスカーフ陳列。
ツルヤ